

産業ガス企業解説

4-1

産業ガス企業解説

エアセパレートガスメーカー

2025年現在、国内工業ガスメーカーは、日本酸素ホールディングスの国内事業会社である大陽日酸、エア・ウォーター、工業ガスメジャーエア・リキードグループの日本法人である日本エア・リキード、岩谷産業、高圧ガス工業、東邦アセチレン、小池酸素工業の7社であるが、これら国内工業ガスメーカーは90年代以降再編統合を重ねてきた。1989年当時は、日本酸素、ほくさん、大同酸素、大阪酸素工業、テイサン、大陽酸素、東洋酸素、岩谷産業、高圧ガス工業、小池酸素工業、東邦アセチレンの11社あったが、36年余りを経過して統合再編されてきたことになる。現在、日本酸素ホールディングス、エア・ウォーター、日本エア・リキードは、いずれも合併再編を経てきており、今日まで独立独歩の道を歩んできたのは、岩谷産業、高圧ガス工業、小池酸素工業、東邦アセチレンである。

合併統合の歴史を振り返ってみると。まず、エア・ウォーターは、93年、大同酸素とほくさんが合併した大同ほくさんを経て、2000年の住友金属(当時)系の工業ガス企業、共同酸

素と合併して誕生した。大陽日酸は、95年、大陽酸素と東洋酸素が統合した大陽東洋酸素と日本酸素が04年に合併してスタート、大陽日酸はその後14年11月に国内化学大手の三菱ケミカルホールディングスの傘下に入った。

工業ガスメジャー、仏エア・リキードの日本法人である日本エア・リキードは、創業100年を超える国内最古参の工業ガスメーカーの一つだが、外資系同志の合併を経て今日に至る。エア・リキード傘下の帝国酸素にルーツを持つ日本エア・リキードと英BOC(現リンデ)の傘下に入った大阪酸素工業が93年、産業ガス事業部門を統合、ジャパン・エア・ガシズとなった。その後、BOCがリンデに事業売却され解体した後は、2007年3月エア・リキードが旧BOC分を含め、株式を買い取り、100%子会社とした。

国内にはエアセパレートガスのメーカーポジションを有する企業として、先に挙げた7社以外に都市ガス系の東京ガスケミカル、大阪ガスリキッド、レゾナックエ子会社のレゾナック・ガスプロダクツ、東亜合成子会社の東亜テクノガスがある。

エアセパレートガスメーカー

